

Ⅲ. 被害類型別聞き取り調査結果

1. 殺人の被害者遺族

話を聞くことができたのは10件。通話時間は最長で40分、最短で3分、平均20分であった。電話口でとまどうようすを見せた人もいたが、現在の様子、話したいことなどを尋ねると応じてくれた。話し相手を求めているようすで「自分の精神状態に不安を感じる。誰かに話をしたい。カウンセリングを受けたかったけど出掛けることはできなかった」人や、以前（事件後1年）に犯罪被害者相談室からパンフレットを送付されていたが「その時は返事をするような気持ではなく、やっと今はもう落ち着いていますから大丈夫」と言って応じてくれた人もいた。

また、電話での聴取に「こちらからそっちに行ってお話ししてもいいんですけど、愚痴だけになって、どうにもならないかと思って躊躇していた」と言い、その後で面接に来られた人がおり、その聞き取りの一部も加えて記述した。

あまり話したくないということで謝辞だけで終了した家族もあった。

◎（電話口では落ち着いた応答。今の様子を尋ねると、口ごもり）

私はもう年ですからね、今さらべつに。まあ、いろいろありますが、いいです
（ということで無理に話を進めないで、相談室の案内をして電話を切った）

◎その件については、もう触れられたくないという気持です。

（お礼を言い、電話を終えようとする）

今後、電話かかってきませんよね？

（と確かめられた）

以下は問いかけに応じてくれた人の聞き取りの概要を項目別にまとめたものである。

1) 事件の衝撃と、心理的反応

① 事件の内容に関して

被害は通り魔的な犯行によるものがほとんどである。殺害方法については、ナイフや刀での刺殺が最も多く、他に、殴る蹴る暴行、ガソリンをかけられての放火、頭を殴打されて頭蓋骨折、電車で飛び込む際の道連れ、という事件があった。

加害者との関係については、面識がない、あるいは不明と見られるものが多いが、隣人

や仕事上の付き合いがあった場合もある。

また、被害内容について「その日の事が頭から離れなくなるので書きたくない」とだけ書かれていたものもあり、思い出すことも避けていることが窺われた。

② 事件の衝撃と心理

事件のショックは大きく、事件については、思い出すこともつらいが、援助を求めることも難しいと述べている。

- ◇まさか殺人なんて自分の身におこるなんて考えていないから。それからが大変なことになったけれど、記憶が切れてしまった。
- ◇（病院に付き添っていて）膝がガクガク、どこかに掴まっていないと立てなくなった。この後、一か月は膝が変になり、足がもつれ、二か月は手に物が持てなくなり、力が入らず、字が書けなくなった。
- ◇納得できていない。思い出したくない
- ◇事件について話せたら気持ちが楽になるだろうけど、やはりできない
- ◇人間、経験しないことは分からない、と思った。カウンセリングを受けたかったけど、とても出かけることは出来なかった。

③ 周囲の対応について感じたこと

近所の人などに、励まされることや興味本位に聞かれることはつらく、取えて触れてこない人に信頼感をもつようになったという。

- ◇近所の人や親戚にあって“つらかったでしょう？”と云われることは、嫌な気がする。のぞき見趣味に思われる。
- ◇友達でも何も云わない人、事件に触れてこない人だけとつきあうようになってしまった。そういう友人だけが自分の気持ちをわかっているような気がする。
- ◇周囲の“しっかりしなきゃダメ”という言葉は、その通りだがどうすればよいのか分からないし、叱咤激励はつらかった。
- ◇通っていた内科の医師は話を聞いてくれ、黙って睡眠剤をくれたのがありがたかった。

事件のことは周囲の対応にかかわらず、やはり話しにくい。

- ◇周りの人にはあまり言えない
- ◇周囲の人もどういう殺され方をしたかよく知らない。打ち所が悪かったんじゃないかと思っっているようだ。
- ◇昔からのつきあいが多く、みんなすごく同情して心配してくれた。顔を合わせるとつらい。

2) 医療現場での対応について

事件直後の生命にかかわる緊急時には、迅速で適切な治療を何より望んでいる。しかし、必ずしもそれが得られていない。

◇手当を適切かつ迅速に処理をして欲しかった。病院で処置室の前で祈っていたが、担当医が出てきて『病院に着たときにはすでに亡くなっていた』とだけ聞かされた。何の処置をしたか教えてもらいたかった。

◇救急車に乗ってからなかなか動き出さない。もっと迅速に対応して欲しかった

◇二時間後に救急車で病院に運ばれたが、病院側は手もつけられなかったのか、手当もせず、医師が見に来て「どの人？この人？もうダメだ」と大声で言った。残酷な事件と共に、病院のこの対応がいつも一緒に思い浮かび、胸が締め付けられる思いがする。

◇（病院は）親切ではあったが、何でも言わないとやってくれないので不満はどんどん口にした。点滴は終わると自然に止まるようになっているということなど、説明不足だった。

3) 警察の対応について

① 初期対応

対応がよかったとするものには、配慮が感じられたとして「こちらのショックを思いやり、十分な気くばりをしてくれた」り「非常に気の毒という態度」があった。

対応がよくなかったとするものには、連絡の際「心中のような言い方で来た」ことである。

また、捜査のためかと思われるが「応急処置を受けている最中に名前やいろいろなことを聞いたのが非常識だと思った」遺族もいる。

② 事情聴取

事情聴取は、長時間であること、直後の心理的・身体的状態や家庭の事情を考慮しないことに対して、負担が大きいということを述べているのが目立った。

「家族の安否が不明であり自分も怪我をしている」状況で行われたり、「家族がうろたえていて、自分がいなければ困るのに、長時間事情聴取され、母が入院し小さい子どもはおかしくなった」遺族もいた。

事情聴取の時間については「担当者が変わるたびに同じ事を繰り返し質問」され長時間にわたったり、「家族が亡くなってすぐに警察に呼ばれ事情聴取を何時間もされた。もう少し心の痛みをわかってほしい」「二、三日たって少し落ちついて自宅に来てほしい。警

察に呼ばれてとても困った」「もう少し時間がたってからにしてほしかった」というように、被害後間もない時期の事情聴取や場所についての不満が見られた。

事情聴取の内容としては「事件と関係ないところまで質問しなくてもよい」のではないかと考えている。

◇警察官に（第一発見者なので）帰った時電気はついてたかとか、鍵はどうなっていたかとか、何度も聞かれたけれどわからなかった。何度も聞かれた、ということは鮮明に覚えている。答えられないと疑われてしまうのかとか、できるだけ協力しようと思ってスラスラ答えると疑われてしまうのかとか思った。自分も容疑者として扱われているのかと警察に対して不信感をもつ。今は、それも無理ないと思うけれど、その時は何でとか、またかと思っていた。

被害者側からの発言の機会がないことについても「事件直後は頭が混乱していてよく答えられなかった。裁判になってから、いろいろ思い出した事があったが、それを発言する機会がなかった」「検事からの事情聴取は自分の聞きたい事だけ聞き、こちらの言いたい事が言えなかった」という。

③ 警察への問い合わせ・警察にして欲しいこと

◇未解決のままだが、殆んど状況を知らされていない。（自分が第一発見者だからかもわからないが）犯人像や犯行状況について殆ど話してくれなかった。自分なりに心の整理をつけようと思っているが、そういう状況では納得できない。時効まで継続捜査をしているのかどうか、それとも既に終了したのかどうか、説明がほしい。担当者も転勤などがあると思うが、命日の時など訪問してくれると心が落ち着くのではないか。

◇警察のタテ割り行政に不満を感じる。事件の進行状態について、誰にきいたらいいのかわからない。

◇犯人逮捕のことが新聞記事でわかった。

◇最初の頃、担当の人に何度か電話したが、何度目かに掛けた時、「あんた誰？何の用？」と聞かれ、始めから説明しなくてはいけないのかと思った。

◇3年目までは盆暮れに警察に聞きに行っていた。内部で移動があれば、担当の人はいなくなるかも知れないが、引き継ぐとかして欲しい。

◇他の事件で時効寸前につかまったという記事を見ると、継続しているのもあるのだな。私の事件はどうなっているのかと思う。

◇年に一回でも、連絡がもらえると少し気が休まると思う。

その他、警察の対応について感じたこと

◇加害者が同じ病院で治療を受けていたので「身の安全が侵されている感じ」がして、警

察に連絡したが、監視しているから大丈夫だと言われた。それでも「動けないし病室は入り口一つなので怖かった」

◇事件が自宅なので、10日くらいは入ってはいけないと言われ、近くの親戚の家に1か月ほどいた。それができない人はホテルに泊まったりすると聞いたがそれともたいへんだった。

◇（事件現場である部屋は）あまり汚れていなかった。警察が拭いてくれたようだ。

4) 裁判について

裁判の進行状況についての情報を求める声が高く、裁判結果については納得いかないという思いが強い。と同時に、裁判を傍聴し、事件について詳しく知ることや、加害者や関係者の態度などによっても、つらい思いをしていることが窺われる。

◇裁判の進行状況などももっと知らせてほしい。

◇長い時間かけて判決理由を聞いたが、あまり知らなかった部分もわかって、やりきれなかった。

◇悔しい、おさまりがつかない。裁判でも、どう恨みを晴らしていいのか。（裁判は）相手方のこれからどうするかということばかり。

◇犯人の母親は裁判で「こんな事をする子供で私は不幸」と泣いた。

[面接での聴取から（50代妻：暴行の後、放置され出血死）]

刑事裁判の時から、以前から知り合いの弁護士にいろいろ相談した。被害者は裁判に縁がないし、加害者は裁判で裁判官の心証を良くするためにいろいろ言うけど、被害者は聞くだけで反論できない。

裁判は全部傍聴した。その時は必死で、負けたくないという思いだった。弁護士さんはいつもきてくれて状況などを説明してくれた。助けになった。

警察は何も教えてくれない。殺され方を知ったのは、裁判所で控訴状のコピーを見て知った。傍聴しないとわからない。次の法廷がいつあるかも行かないとわからない。

民事の時、判決がでる前に裁判長宛の私信を書いた。文章を書くのは苦手だけど、裁判に負けたくない一心で書いた。何もしないともっと腹が立つ。

刑事の時は情状酌量の時に、遺族の気持ちについて聞かれて答えた。

裁判官の心証を悪くしないようにと弁護士さんが気を遣っていた。私を取り乱してしまうと、裁判官から疑われてしまうのかなと感じた。どうやって気持ちをぶつけたらいいのだろうと思った。

判決文も本物は手元に受け取ることはできない。検察庁に行って写すことはできるというが行けなかった。損害賠償の時に手にはいった。

（けが人を放置したということで）お店を訴えた時に、刑事事件判決後、加害者が控訴し

ていたことがわかった。控訴した後は、被害者に何も伝えられない。裁判を続けていないとわからないことがいっぱいあった。

周りから、「裁判は無意味だからやめた方がいいよ」と言われるが、でもやらないよりやった方が後悔しない。

賠償請求がそのまま通ったが、お金がないと言って払ってもらえない。先方の弁護士が和解はどうかと言っている。それで承認しないと、払えないという選択を迫られている。割り切れない気持ちでずっといる。

悔しさを晴らすためには 裁判ではダメなのではという気もしている。

裁判は犯人を更生させるもので、被害者には何もなくていいのかと他の人の話もきいてみたい。

5) 加害者に対する気持

加害者に関しては、償いの態度が感じられないことについての思いが目立った。

「事件の内容がはっきりしていない時に葬儀や詫びに来られたが迷惑だった」

「お金がないという事で何も金銭的に償われなままである」遺族や、何の保障も得ることができなかつたり、加害者の家族が何も詫びないことや、「離婚しているから、何も知らないし関係ない」とされたり、「裁判では情状のさい上申書を子供と連名で出して、その時だけ裁判を傍聴に来た」ことでとても悔しい思いをしたという遺族もいる。

そういう加害者に対しての怒りもある。

◇加害者もその家族も挨拶がなく、どういうことかと思った。

◇せめて申し訳ない、という一言があれば裁判官の心証も違ったのに。世の中、人を殺しても何とも思わない人がいるんだな、とびっくりした。

◇もし人に知られなかつたら殺してやりたい。きちんと罪を償っている感じはない。刑務所に入ってほしい

◇日本では犯人の人権が守られていて、税金で暮らしている。こちらは食べるのにも困っているのに。

◇息子は今も犯人が出てきたら殺してやると言っている

加害者を恐れている家族もいる。

◇相手に恨まれて長い手紙をもらった。私は何も相手に悪い事をしていないのに、刑務所から出て来たら私も殺されるのではないだろうか。

加害者に金銭的な償いを求める気持ちになれず「相手に保障問題等で民事訴訟も考えたが、悔しさだけが募るばかりで娘は帰ってこないし断念した」遺族もいる。

6) 現在（調査時）の状況について

事件後、時が経過しても遺族の影響は様々なところで続いている。心身の不調がみられることも多く、その他のことでも相談相手をどこに求めてよいかわからず、不安なまま過ごしている。

- ◇現在は闘病生活中。今も眠れない。睡眠薬、安定剤を外科でもらっている。3日に1度は睡眠薬を飲む。2、3時間熟睡するが、その後頭痛がする。
- ◇今頃になって鬱病が心配。一人でこもっていて友人もできない。こんな時、誰に相談したらいいだろうか。
- ◇問い合わせをどこにしてよいかわからない。精神的に少し持ち返したかと思うが、お盆の時期はつらい。早く忘れたいが同世代の子を見ると思い出す。
- ◇カウンセリングに行けばいいのかもしれないが話すことがつらい。
- ◇裁判がストップしている。犯人はもちろん何も言ってこない。弁護士に頼むお金もないし、一人になってしまったので何もできない。
- ◇決着を付ければ気持ちが収まるのかなと思う。事故後1年間は、電車を乗り過ぎしたり、定期や財布を落としたりしたが、なぜか出てきたので、(故人が)守ってくれているのかなと思った。電車の中で泣いたりした。
- ◇今は恨みの方が強い感じがする。
- ◇(故人のことを)毎日折に触れて一日数回思い出す。

理解をしてくれる相手がいることで楽になれる人や、つらいけれど受け止めていくという人もいる。

- ◇以前からの知り合いの病院の先生に話している。先生は「そんなに暗く考えずに毎日明るく暮らさない。お酒もいい。楽しいことをして」という。こう言われるとそうかなと思って楽になる。
- ◇事件のことを思い出すと感情的にはとてもつらいが、私の運命として授かったものとして、受け止めて生きていきたい。

事件に巻き込まれると、家族全体が影響を受ける。

- ◇下の子がトラウマみたいになって、小児保健科というのにかかっている。事件当時いろいろな人が来て大騒ぎになった。毎日来て泣く人もいたりして、そういう中にいたので、大きな声をちょっと出されると怖くてふるえてしまう。
- ◇医者は、「お母さんがショックを受けているから、それが子供に反映している。お母さんが楽になることが必要。早くスッキリしなさい」と言うが、そんなに簡単にいかない。

- 家族の一員を喪ったことで、生活全体や今後の生活にも大きな変化が生じることになる。
- ◇子供が思春期になったとき、男性の役割が自分には取れず不安。
 - ◇自営業で、代表者になったが、どう経営していったらよいか悩んでいる。